

消えた年金保険料の納付記録 ポイント数字

50,951,103件

年金給付に結びつかない保険料納付情報

内訳 国民年金1128万9282件 厚生年金3966万1821件

(平成18年6月1日現在)

うち、65歳以上 国民年金589万7280件 厚生年金1754万6053件

合計2344万3333件

18,667,317件

5000万件のうち、受給年齢でなおかつ存命の可能性が高い方の記録

内訳： 国民年金366万7662件(65-79歳)

厚生年金1499万9655件(60-79歳)

301,841件

5000万件のうち、「生年月日不明」となっている記録

84人

社会保険庁には国民年金保険料の納付記録が存在しなかったが、本人が領収書などを保存していたため、社保庁が記録の訂正に応じた件数。どこかで記録が消えたことを社保庁が認めた人数(記録相談の特別強化体制 昨年8月21日から12月28日分)

84件中、29件は社会保険庁又は市町村の資料に納付記録があることが判明。残る55件は、完全に記録が消失。

20,635人

年金記録相談の特別強化体制が始まった昨年8月21日から、今年3月30日までにおいて、本人は国民年金及び厚生年金の保険料を納付したと申し出たにもかかわらず、申し出が却下された人数。

内訳 17,438人は申し出た内容のすべてが却下され、3,197人は申し出た内容の一部しか認められなかった。

領収書を持参していなければ、保険料納付を認められず結局、約130人に1人しか救済されていない。

218,474人

社保庁のミスなどの理由で、国民年金及び厚生年金の受給額が受給途中で変更になった人数(裁定変更、平成13年度から平成19年2月末までの6年間分)

412,518人

58歳通知(平成16年3月開始)において、国民年金及び厚生年金の保険料納付記録の訂正要求をした人数(平成18年12月末現在)

発送466万899人、うち41万2518人(8.8%)が訂正要求

返信無しが134万8032人も存在

??????件

昭和59年前後の年金システムの全面コンピューター化に伴い、国民年金や厚生年金の保険料納付を記録した手書き台帳からデータをコンピューターへ移行した。その際にミスがあった可能性がある。手書き台帳の記録のうち、コンピューターに移行されなかったものが何件あるか不明。

手書き台帳がすべて保存されていれば、後から追跡調査をすることができる。しかし、国民年金の納付記録を手書きで記録していた手書き台帳は、特殊台帳と呼ばれる一部の台帳はマイクロフィルム化して残しているものの、その他の手書き台帳は、マイクロフィルムに保存もせず廃棄している。理由はコンピューターにデータを入力したのだから必要がないというものだった。